第 2016-33 号

恵みと真理のニュース

2016 年 8 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　愛する娘の入試失敗と合格の過程を通して　神様にもっと近く進むようになりました

私は青年の頃イエス様を信じた後、結婚をしてカンミョンで生活をしました。慣れてない所で新しい教会をすぐ決定できなくて信仰も弱くて奉仕もしなくて主日礼拝だけ捧げる恥ずかしい信仰生活をしました。当時、私は二つの祈り課題がありました。御言葉に対する切ない心の解消と妊娠することでした。

はじめの子を失敗した後は妊娠が出来なくて心配している時に私が働いている学校の科学室で勤務している先生が助けてくださって平日でも学校で区域礼拝を捧げるようになりました。恵みと真理教会の区域長だった方をついて恵みと真理教会のカンミョン聖殿に出席し始めました。区域長の家はアンヤンでしたが休みの期間中にはカンミョンの家まで来てくださって区域礼拝も導いてくださいました。

私は区域長と共に子を身ごもるため神様に切に祈りました。当時には当然だと思ったですが今考えると区域長の献身と愛の心がなかったらできなかったことです。神様の恵みで私は妊娠をするようになって出産するまで区域長と共に神様に感謝を捧げて子供を守ってくださるのを願いながら礼拝を捧げました。ついにきれいな娘を産みました。主の恵みと愛の中で娘は育って小学生になりました。

信仰を持つ子供になるように育つ大事な事実を忘れていました。その間、 子供は一人で無防備状態で成長しており、私は相変わらず職場生活で忙しかったです。ところが、私に大きい試練が来ました。急に無気力になって生活に楽しさもなくなり意欲も失ったのです。誰よりもすべてのことに意欲的で欲張りだった私としては想像もできない事でした。

牧師が訪問する前の日、私は牧師が勧める話には全て従順すると決心して神様に祈りました。訪問に来られた牧師は私に幼稚部に教師が足りないから教会学校で奉仕するのを勧めました。私はすぐ‘はい’と答えました。幼稚部教師で奉仕しながら自然に娘も教会学校で出席するようになりました。

性格が消極的でアトピーもあった娘は教会学校ですぐ適応せず出席だけしました。私はもっと関心を持って積極的に信仰教育をしたらよかったのに娘の信仰と人性教育を教会学校の教育に依存しました。

今もそのところが娘に多く済まないことをして後悔しています。結局娘の信仰生活は中学生になって止まりました。一人子で温かい温室で育った花のようなそだったせいか、共同体の生活に適応できませんでした。学校でも同じでした。友達と交わることもできなくてアトピーで被害意識もたまっていましたが、私は単純に思春期だと思いました。その間娘の心は傷だらけなり、勉強にも影響を及びました。神様はくださる才能が多かったですがすべての賜物が見えなくて心の傷だらけが見えました。

高校に入った娘は美術に才能が多かったので美術大学に進学しようと決めました。また、その進路の事で娘と私の苦痛は始めました。美術だけ上手だったら美術大学に入ると思いましたがそれではなく入試成績も大事でした。美術の実力と成績二つとも上手にならないとソウルにある大学に進学することが出来なかったです。私は娘の進学のため伝道師や区域の生徒や幼稚部の先生達にも祈りを頼みました。

娘の大学進学は易しくなかったです。誰よりも旦那が苦しんでました。婚家の家族の子供たちは親と自分が願っていた大学に入ったのになぜ、娘の入試の問題でこんなに苦しのかと私に怒りました。なぜ、神様があなたの祈りに答えてくれないのか〝祈り”の話も話せられないくらいでした。

とうとう私も神様の恨み話をしに至りました私から御言葉を掴まなくて娘に神様に対する信仰と希望と愛を教えなくて祈りで教育しなったのに神様に不平だけしたのです。

その年大学進学に失敗した娘は浪人をするようになりました。浪人をする間娘と家族は苦痛でした。娘は朝早くから受験勉強のため入試学院に行って週何回はソウルのホン大学近くにある美術学校に行く大変な時間を過ごしました。その間私も朝祈り会に参席して熱心に祈りも捧げました。旦那と娘にも主日礼拝は守って勉強するように続けて勧めました。

娘が浪人する間私は伝道師がくださった〝主御自身が建ててくださるのでなければ／家を建てる人の労苦はむなしい。主御自身が守ってくださるのでなければ／町を守る人が目覚めているのもむなしい。（詩編１２７：１）“御言葉を信じて祈りました。

娘が大学を準備する間受験の結果がよく出て合格すると強く信じました。しかし、結果は反対でした。私達の家族には衝撃でした。もちろん娘の落胆は言うまでもなかったです。

〝お母さん！祈りながら準備したのに　なぜまた落ちたの？私より熱心にしなかった友達も合格したんです。〟！私は娘に何も言えませんでした。私も辛くて

主よ、主の御心が何ですかどこにありますか？と祈りました。家族と意見を話しました。私は成績に合わせて進学しようとして娘と旦那は再び挑戦する意見でした。私は神様に祈った後、娘の決定の通り尊重しました。

そしてこれからは全てを神様の導く手に娘の進学と将来を委ねました。2014年1月娘が美術実記試験の日がちょうど区域訪問の日でした。牧師が訪問しに来ると話したのでちょっと悩みました。〝訪問を受けるか、娘の試験場に一緒に行くか少し悩みました。旦那が腹を出しそうで 娘も美術道具を持ってバースを利用して試験場に行かせるのもかわいそうで悩みましたが娘と旦那だけ試験場に行くようにして私は家に残りました。

牧師と伝道師が来て慰めと希望の御言葉をくださって主を最後まで信頼しなさいと祈ってくださいました。祈りをする時悔い改めと感謝の心で涙が出ました。ついに娘は自分が願っていた学校と他の学校も合格しました。合格通知を受けた日に家族はうれしくて喜んで歓声を上げて神様に感謝祈りを捧げました。

今、娘は主の恵みで大学生活を熱心にしていて信仰もまだ弱いですが一足一足主の前で進んでいます。娘の入試の失敗と成功をの経験を通して家族が以前と違って神様と人の前で謙遜に行動するのも主の恵みです。足りない私に区域長と教会学校の教師職分を受けて献身しているのも主の恵みです。 そして、何よりも新婚のはじめに切なかった心が礼拝の時に牧師の説教を通して充満になっているのも主の恵みであることを告白します。

〝過去のあなたは小さなものであったが／未来のあなたは非常に大きくなるであろう。” （ヨブ記8：7）は御言葉が愛する私の旦那と娘の信仰にも適用して証するのを願いながらすべての家族に信仰の賜物をくださいと神様に祈っています。今まで私を守ってくださって導いてくださる神様の愛と恵みに感謝し声高く賛美します。

［信仰コラム］　イエス様の初臨と再臨

〝...しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。〟
（マタイによる福音書 24:1～14）

イエスキリストがどなたであり、彼の初臨と再臨がなぜ、いつ、どのように起きるのかを分かる知識より尊くて重要なのはありません。この知識は比類なく貴重で美しいので私達が一生を通じて探究するようになり、知れば知るほど神秘さと驚きによって喜びと感謝が溢れます。

まず、イエス様の初臨について調べてみましょう。

人類の祖先であるアダムが神様の命令を逆らったので罪人になり、アダムの子孫は例外なく罪人として生まれます。神様はこの問題に対する解決策を備えられました。それは＇贖いの恵み＇という解決策で罪のない人が罪人の罪を代わりに担い刑罰を受けさせるのです。アダムの子孫として生まれる全ての人が罪人であるので罪人を贖う資格を持った人がいません。聖父神様が罪人を贖う事のために聖子神様をこの世に送らせました。イエス様は聖父神様の決められた時に十字架につけられ血を流して死に、葬れた後三日目に死亡を勝ち蘇られました。これによって誰でもイエスキリストを救い主として信じ、迎接すると罪の拭いを受けて正しくなりとこしえの命を得ます。アダムの犯罪によって全ての人が罪人になったことは誠に悲しくて嘆くべきのことです。しかし、イエスキリストによって彼を信じる全ての人が正しい人になることは誠に驚くべきで感激的なことです。イエス様が初臨なさった目的は罪人の罪を代わりに担って救うためのことです。イエス様は救いを完遂なさって昇天なさいました。

次は、イエス様の再臨について調べてみます。

イエス様の初臨より再臨に関する予言が聖書にはるかに多く記録されています。イエス様が再臨なさる目的も聖書に明るく啓示されています。聖徒達を復活させてこの世を審判なさい、サタンを処罰なさいます。聖徒達に行った通りに賞を授け、新たな空と新たな地そして、新たなエルサレム城が到来するようになさって聖徒達がその場で永遠に生きるようにしてくださいます。なので、聖徒達はイエス様の再臨を懇切に慕いながら期待して更に、イエス様の再臨の時期と兆しを知ろうとします。〝あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか〟と話した弟子達の質問にイエス様は民族と民族間の紛争あるいは同族間殺し合う戦争、国家間の戦争特に、世界大戦のように数ヵ国が同盟し、連合して対敵しながら戦う事が起きて様々な所で飢饉と地震があることを言われました。そして、偽りの予言者が多く表われて数多くの人を惑い、不法が蔓延るので多くの人の愛が冷えるとも言われました。

旧約聖書のダニエル書 12 章と 4 節に〝ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」。〟と記録されました。＇多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増す＇ことが現実になる時、これは封じたものが開けられたことでありこの時が最後の時であります。今日の最先端交通通信、情報交換の手段は 100 年前までは想像だにできなかったことでした。なので、今日は封じたものが開封される最後の時であります。イエス様の再臨が近づくほど知識が多くなり、科学の技術が目覚ましい発展をするでしょう。人々は自慢し人本主義の思想が蔓延るでしょう。それと比例してお祈りは一つの空しい儀式と形式に過ぎないことに扱われて信仰生活の装飾や付属物に扱うでしょう。人間の知識と技術に魅了されて圧倒された信仰は窒息するか形式的な命脈を維持するでしょう。

歴史の終末は両面性を持っています。不信者には悲劇的な終末であり、信者にとっては究極的な望みの成就です。人類の歴史はイエスキリストの初臨と再臨という二つの事件に関連されています。イエス様が自ら言われ〝人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。〟としました。主が再臨なさる直前にはこの世に教会は多くても誠な教会は少なく、信者は多くても誠な信者は少ないという意味です。私達を警醒させるお言葉です。警鐘を鳴らすお言葉です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

つまずくする人とつまずかせる人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

教会の外の社会ではほとんど使わないとか使用頻度が低い単語だが教会の中ではしばしばきいて言うようになる用語があります。 罪の誘惑という言葉がその中に一つです。 “罪の誘惑するくらいであった。” “罪の誘惑であった。” “罪の誘惑させた。” こんな言葉は信者には信仰に赤信号と危機を意味します。 イエス様がおっしゃるのを “この世は、罪の誘惑があるから、わざわいである。罪の誘惑は必ず来る。しかし、それをきたらせる人は、わざわいである。”(マタイによる福音書 18:7) としました。 ‘罪の誘惑する。’ という言葉は信仰の道で ‘倒れる、離脱する’と言う意味を持ちます。 新約聖書 ヘブル人への手紙でクリスチャンの信仰生活を競走で比喩しています。 “こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。”(ヘブル人への手紙 12:1)と記録されました。 信仰生活は障害物の競走とそっくりです。 油断すれば倒れさせる障害物が散在しています。 “罪の誘惑させる事のないことができない。” とイエス様がおっしゃいました。 信仰生活において罪の誘惑することと他人を罪の誘惑させることこの二つは悲劇の中の悲劇です。 だから私たちは自分が罪のつまずかないだけでなく他人を罪のつまずかせる事をしてはいけないです。 そうするために私たちが必ず念頭に留めおいて実践しなければならないものなどがあります。

第一は、“罪のつまずかせる事のないことができない”と言うイエス様のお言葉を念頭に留めおかなければなりません。

誰でもイエス様を信じれば罪の赦しを受けて生まれかわって神様の子になります。 しかし誘惑と患難と逼迫が免除されないです。 この世の中に住む間にはさまざまな誘惑と患難と逼迫を経験しながら生きて行くようになります。 イエス様を信じる人は教会に出席することが正常です。 そして教会で奉仕もするようになります。 誰も初めには信者の集まりと活動に参加すれば世の中の集まりと違っていつも愛と恵みがあふれると思います。しかしまもなく去ってそうではないということを経験するようになります。 罪の誘惑させるに値することがどの所でもあるというのが分かるようになります。 他の信者の信者らしくない言行によって経験するようになる心の苦痛が患難と逼迫以上に信仰に障害物になることもできます。 罪の誘惑させる事がないくらいと言うのはこの世の中どこにもないです。 だから皆さんは罪の誘惑させる事があることを見ておかしと思うとか驚かないようにしなければなりません。

二番目は、罪の誘惑する人に近づく災いがいくら大きくて恐ろしいかを分からなければなりません。

つまずかせる事にあって “これから信仰生活をしなくてもいい。イエス様を信じなくてもいい。” と思った人はひどい無知から出た考えです。 “私はあらゆる理由によって信仰を捨てる。” あるいは “私は誰のためイエス様の信じることをあきらめる。” という言葉は “私は何の理由で、誰のために地獄へ行く事にした。” という言葉のようです。 地獄が実在するということと地獄がいくら残酷な所という事実が分からないからこんな考えると言うのです。地獄がいくら苦しくてさんたんな所なのかを マルコによる福音書 9 章によると “地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。人はすべて火で塩づけられねばならない。”(マルコによる福音書 9:48,49)と記録されました。 死にたくてもたまらないことができないし死が避ける所です。 永遠に燃える所です。 熱い火に燃えた傷に塩が振られればその苦痛の強さは極甚になります。 地獄には非常口や脱出口がないです。 どうしても地獄だけは行ってはいけないです。 他人からつまずくになる言葉と行動を接するようになる時罪の誘惑する人はひどく幸いがない人です。 皆さんは気持ち悪くなる事や困難や患難にあっても決してつまずくする事がないように願いします。

三番目は、他人をつまずかせる人と彼に当たる災いがいくら大きくて恐ろしいかをよく見ます。

他人がイエス様を信じようと思う道で障害物をおいて信じるのをあきらめるようにする人がいます。 他の信者を罪の誘惑させる人がいます。 その例を列挙して見ます。
第一、言行を節制なしにするから他の信者の気持ちを傷つけて罪の誘惑させる人がいます。 私たちは自信が言うことと行動が他人にどんな影響を及ぼすはずなのかを深思熟考する習慣を持つように努力しなければなりません。 第二、礼拝によく参加して主の仕事に力をつくす信者を惑って肉体の事に力をつくすようにする人がいます。 そしてその信者は徐々に信仰が冷えられて信仰生活をなおざりにしている途中の罪の誘惑するようになります。 第三、異端の似以非集団に接触するように信者を誘引して罪の誘惑させる人がいます。 第四、福音の真理を歪曲されて混雑するように教えて信者を罪の誘惑させるリーダーがいます。 イエス様が彼らに “へびよ、まむしの子らよ、どうして地獄の刑罰をのがれることができようか。”(マタイによる福音書 23:33)という峻厳な審判を宣言しました。
イエス様はおっしゃるのを “この世は、罪の誘惑があるから、わざわいである。罪の誘惑は必ず来る。しかし、それをきたらせる人は、わざわいである。”(マタイによる福音書 18:7) としました。 罪の誘惑させる事は天国に行っている人を振り返えて地獄に行かせる途方もない罪悪です。 こんな行為はサタンのしもべとして下手人の役目をする事です。 サタンは信者を罪の誘惑させようとすべての手段と方法をすべて動員します。 イエス様はおっしゃるのを “しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。”(マタイによる福音書 18:6) としました。 もし他人を罪の誘惑させた日があれば徹底的に悔い改めてその人が信仰を回復するように勢いよく助けなければなりません。

四番目は、罪の誘惑する原因が自信にある人々に対してよく見ます。

イエス様がおっしゃるのを “わたしにつまずかない者は、さいわいである」。”(マタイによる福音書 11:6) しました。 ありのままで言えばイエス様は人が罪の誘惑するようになる原因にならないです。 ところでどんな理由でイエス様が倒れさせる差し支え石になってイエス様によってつまずくするようになる者ができるというお言葉ですか? イエス様がつまずかせるのではないです。 罪の誘惑する原因は罪の誘惑するその人にあります。
第一、イエス様を人間以上では認めないようにするから聖書に啓示されたイエス様が彼らには障害物になります。 彼らは神聖を持ったイエス様が童貞女の身に聖霊に孕胎されて世の中へいらっしゃったことを信じないです。 私たちの罪を担当して十字架に釘つけられる事ができなくたまらなくて墓から復活したし世の中にまたいらっしゃるイエス様に対する聖書お言葉を信じないです。 神様のお言葉を人間の経験と知識と判断する者は神様のお言葉が障害物になって倒れるようになります。
第二、主観的な先入観念によって聖書に啓示なさったとおり世の中へいらっしゃったイエス様が彼らには障害物になります。 ユダヤ人は律法と預言書を読んでメシヤを待ちこがれたが彼らの先入観念によってメシヤであるイエス様をむしろ排斥したことのようです。
第三、肉体の必要を満たすためなのが信仰の主な目的になればイエス様によって罪の誘惑するようになります。 イエス様がベッセだ荒野に行ってからその所で人々が雲集しました。 群衆はイエス様のお話をきこうとして時間が経つとは思わなかったです。 イエス様が子供が提供したパン五つと魚 二匹を持って奇蹟を行って群衆を皆腹一杯食べさせました。 翌日、人々が前日集まった所に行ったらイエス様がいらっしゃらなくて船に乗ってガペナウムに行ってそこにいらっしゃるイエス様を見て喜色をしました。 イエス様が彼らを向けておっしゃるのを “イエスは答えて言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。”(ヨハネによる福音書, 6:26) としました。 彼らはイエス様が行った奇蹟を通じてメシヤを見なければならなかったが腹一杯食べたことだけ楽しんだのです。 罪の赦しことと永生を得るための目的ではない他の理由が主要目的な人はいつかは罪の誘惑する時が来ます。 すべての事が自分が期待して求めとおりになることだけを望んでイエス様を信じれば願わない試練と苦難に逢着する時に疑心と気落ちによって罪の誘惑するようになります。 イエス様がおっしゃるのを “わたしにつまずかない者は、さいわいである」” としました。

皆さんの信仰がただ聖書だけに根拠したのができるようにしてください。 記録された神様のお言葉の外に越えて行かないでください。 イエス様を信じて救いを得たよりもっと重要なのがない信者になってください。 この信者はつまずかないです。 皆さんはどんな事に会ってもつまずかない堅固な信仰を持った聖徒になってください。 そしてつまずくした人を起こして立ててくれようとも他人をつまずかせる行為はきめしてしない 聖徒になるように願いします。